

22-7 抽象クラス

例題 14.4 では、

C言語の下でソフトウェア部品の汎用化を進めるために、
3つの整列化モジュール

`btree-heapsort.c`, `bubblesort.c`, `llistsort.c`

の外部仕様 (i.e. 外向けに提供する外部関数の名前や使い方) の統一

一方 Java では、ソフトウェア部品の汎用化を進めるために
「抽象クラス」というものを利用できる。

抽象メソッド... クラス定義の中で本体部の記述がなく、
次の形で宣言されている (インスタンス) メソッド

アクセス修飾子 `abstract` 他の修飾子, あれば

戻り値の型 メソッド名 (引数列);

抽象クラス... 抽象メソッドを含み

“`abstract`” という修飾子付きで宣言されたクラス。
インスタンスを生成できない。

抽象クラスを使う利点：

- **統一感のあるプログラム**の作成に繋がる。
- メソッドのオーバーライドのやり忘れを**コンパイルの時点で防げる**。
- 意図しないインスタンス生成をコンパイルの時点で防げる。
- 互いに類似した複数のクラスがある場合、
 - ◇ これらのクラスに**共通する部分の詳細だけを記述し、**
 - ◇ **個別対応が必要なメソッドについては、抽象メソッドにした抽象クラスを用意すれば、**
 - ◇ 同じコードをあちこちの場所に書く必要が無くなり、
コードの**冗長さが無くなる**。
 - ◇ 各サブクラスにはサブクラス特有の処理だけを書けばよく、
コードの**見通しが良くなる**。
 - ◇ 別の類似クラスが新たに必要になった場合も、
そのクラスを簡単に定義できる様になる。

例22. 6 (2次元座標上の図形オブジェクトに共通の枠組みを定める抽象クラス)
2次元座標上の円や長方形、三角形といった図形オブジェクトを多数扱う場合、これらに共通の枠組みとして抽象クラスを考え、個々の種類のオブジェクトのクラスをこの抽象クラスのサブクラスとして定義することにすれば、図形オブジェクト全体を統一的に扱うことができるようになる。

具体例として、

Shape2D ... 図形オブジェクト全体の抽象スーパークラス,

Circle2D ... 円オブジェクトのサブクラス,

Rectangle2D ... 長方形オブジェクトのサブクラス,

Triangle2D ... 三角形オブジェクトのサブクラス

の定義例を次に示す。

```
[motoki@x205a]$ cat -n Shape2D.java
```

```
1 /**
```

```
2  * 頂点等の座標情報を保持する2次元図形オブジェクト
```

```
3  * に共通の枠組みを定める抽象スーパークラス
```

```
4  */
```

```
5 abstract class Shape2D {
6     protected final int id; //図形インスタンスに付ける..
7     private static int numberOfShapes = 0;
8                                     //生成した図形インスタンスの個数
9
10    /** 2次元座標上に図形オブジェクトの共通部を構成する */
11    public Shape2D() {
12        id = ++numberOfShapes;
13    }
14
15    /** 2次元座標上の図形インスタンスの標準的な文字列... */
16    @Override
17    public abstract String toString(); メソッド名の統一
18
19    /** 2次元座標上の図形インスタンスの面積... */
20    public abstract double getArea(); メソッド名の統一
}
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n Circle2D.java
```

```
1 /**
2  * 中心の座標と半径の情報を保持する2次元円オブジェクト...
3  */
4 class Circle2D extends Shape2D {
5     private double x;        //円の中心のx座標
6     private double y;        //円の中心のy座標
7     private double radius;   //円の半径
8
9     /** 2次元座標上に円オブジェクトを構成する */
10    public Circle2D(double x, double y, double radius)
11        this.x = x;
12        this.y = y;
13        this.radius = radius;
14    }
15
16    /** 2次元座標上の円インスタンスの標準的な文字列... */
```

```
17     @Override
18     public String toString() {
19         return "circle[id=" + id + "] of center (" + x
20             + ") and radius " + radius;
21     }
22
23     /** 2次元座標上の円インスタンスの面積を計算して返す */
24     @Override
25     public double getArea() {
26         return Math.PI*radius*radius;
27     }
28
29     //-----単体での動作テスト用-----
30     public static void main(String[] args) {
31         Circle2D fig = new Circle2D(1.0, 0.0, 2.0);
32         System.out.printf("fig = %s%n" +
33             "    ==> fig.getArea() = %g%n",
```

```
34         fig, fig.getArea());
35     }
36 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac Circle2D.java
```

```
[motoki@x205a]$ java Circle2D
```

```
fig = circle[id=1] of center (1.0,0.0) and radius 2.0
```

```
==> fig.getArea() = 12.5664
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n Rectangle2D.java
```

```
1 /**
```

```
2  * 頂点の座標情報を保持する2次元長方形オブジェクトの...
```

```
3  */
```

```
4 class Rectangle2D extends Shape2D {
```

```
5     private double x0, y0;
```

```
        //長方形の1つの頂点のx座標,y座標
```

```
6     private double x1, y1;
```

```
        //(x0,y0)と対角の位置にある頂点のy座標
```

```
7
```

```
8      /** 2次元座標上に長方形オブジェクトを構成する */
9      public Rectangle2D(double x0, double y0,
                          double x1, double y1) {
10         this.x0 = x0;
11         this.y0 = y0;
12         this.x1 = x1;
13         this.y1 = y1;
14     }
15
16     /** 2次元座標上の長方形インスタンスの標準的な文字列... */
17     @Override
18     public String toString() {
19         return "rectangle[id=" + id + "] of vertices ("
20             + x0 + "," + y0 + "), ("
21             + x1 + "," + y0 + "), ("
22             + x1 + "," + y1 + "), ("
23             + x0 + "," + y1 + ")";
```



```
[motoki@x205a]$ javac Rectangle2D.java
```

```
[motoki@x205a]$ java Rectangle2D
```

```
fig = rectangle[id=1] of vertices (0.0,0.0), (1.0,0.0), (1.0,2.0)
==> fig.getArea() = 2.00000
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n Triangle2D.java
```

```
1 /**
```

```
2  * 頂点の座標情報を保持する2次元三角形オブジェクトの...
```

```
3  */
```

```
4 class Triangle2D extends Shape2D {
```

```
5     private double x0, y0;
```

```
                        //三角形の1つの頂点のx座標,y座標
```

```
6     private double x1, y1;
```

```
                        //三角形の2つ目の頂点のx座標,y座標
```

```
7     private double x2, y2;
```

```
                        //三角形の3つ目の頂点のx座標,y座標
```

```
8
```

```
9     /** 2次元座標上に三角形オブジェクトを構成する */
```

```
10     public Triangle2D(double x0, double y0,
11         double x1, double y1, double x2, double y2) {
12         this.x0 = x0;
13         this.y0 = y0;
14         this.x1 = x1;
15         this.y1 = y1;
16         this.x2 = x2;
17         this.y2 = y2;
18     }
19
20     /** 2次元座標上の三角形インスタンスの標準的な文字列... */
21     @Override
22     public String toString() {
23         return "triangle[id=" + id + "] of vertices ("
24             + x0 + ", " + y0 + "), ("
25             + x1 + ", " + y1 + "), ("
26             + x2 + ", " + y2 + ")";
```

```
27     }
28
29     /** 2次元座標上の三角形インスタンスの面積を計算... */
30     @Override
31     public double getArea() { //ヘロンの公式
32         double sideLeng1 =
33             Math.sqrt((x0-x1)*(x0-x1)+(y0-y1)*(y0-y1));
34         double sideLeng2 =
35             Math.sqrt((x1-x2)*(x1-x2)+(y1-y2)*(y1-y2));
36         double sideLeng3 =
37             Math.sqrt((x2-x0)*(x2-x0)+(y2-y0)*(y2-y0));
38         double s = (sideLeng1+sideLeng2+sideLeng3)/2;
39         return Math.sqrt(s*(s-sideLeng1)
40             *(s-sideLeng2)*(s-sideLeng3));
41     }
42
43     //-----単体での動作テスト用-----
```

```
40     public static void main(String[] args) {
41         Triangle2D fig = new Triangle2D(0.0, 0.0,
                                           2.0, 0.0, 1.0, 1.0);
42         System.out.printf("fig = %s%n" +
43                             " ==> fig.getArea() = %g%n",
44                             fig, fig.getArea());
45     }
46 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac Triangle2D.java
```

```
[motoki@x205a]$ java Triangle2D
```

```
fig = triangle[id=1] of vertices (0.0,0.0), (2.0,0.0), (1.0,1.0)
==> fig.getArea() = 1.00000
```

```
[motoki@x205a]$
```

例題22.7 (整列化モジュールに共通の枠組みを定める抽象スーパークラス)

例題14.4(C言語)で行った、

3つの整列化モジュール `btree-heapsort.c`, `bubblesort.c`,
`llistsort.c` の外部仕様 (i.e. 外向けに提供する外部関数の名前
や使い方) の統一

に相当することをJavaで行ってみよ。

(考え方) 例22.6に倣って、

`int` 配列内の要素を昇順に並べ替える機能を備えた整列化モジュール
に共通の枠組みとして抽象クラスを考え、
個々の整列化手法ごとに、その手法で整列化するモジュールのクラスを
抽象クラスのサブクラスとして定義すればよい。

その際、

同一のサブクラスからインスタンスを複数生成しても意味がない

⇒ サブクラスごとにインスタンスを1個だけ生成し、それを使い回す

3つの整列化手法については Cプログラム

`btree-heapsort.c`(例題13.2),

`bubblesort.c`(例題14.4),

`llistsort.c`(例題14.4)

に記述されている通り。

加筆

線形リスト (例題4の`llistsort.c`に相当するもの)の実装に関しては、

- `int` データを基本要素として

線形リストで(小さい順に)保持するオブジェクトがあれば、...

⇒ この様な、**線形リストを管理するオブジェクトのクラス**

`LinkedListOfInt` を用意

- 線形リストの**要素を表すオブジェクトのクラス** `Node`

... 線形リストのクラスの中で局所的に定義

- C言語の場合... 要素はデータを入れる領域
Javaの場合... **要素はオブジェクト**であり実行主体として動作できる
⇒ 個々の要素 (Node) をオブジェクトとして捉え、
これらの**オブジェクト間の協調によって**
新規要素の挿入や保持要素の表示作業を行う

(プログラミング) ここで関連するクラスとして、

SortModuleForIntArray	...	整列化モジュール全体の
		抽象スーパークラス、
HeapsortIntArray	...	heapsort モジュールのサブクラス、
BubblesortIntArray	...	bubblesort モジュールのサブクラス、
LListsortIntArray	...	連結リストへの挿入に基づく
		整列化モジュールのサブクラス、
LinkedListOfInt	...	int データを各節点に保持する
		連結リストオブジェクトのクラス


```
[motoki@x205a]$ cat -n SortModuleForIntArray.java
```

```
1 /**
2  * int 配列内の要素を昇順に並べ替える機能を備えた整列化
3  * モジュールに共通の枠組みを定める抽象スーパークラス
4  */
5 public abstract class SortModuleForIntArray {
6     /**
7     * コンストラクタの代わりに外部に
8         整列化モジュールを提供する窓口。
9     * サブクラスを定義する時に、
10        このメソッドは隠蔽されなければならない。
11        (staticなので「オーバーライド」とは言わない)
12        クラスメソッドなのでabstract宣言不可
13     */
14     public static SortModuleForIntArray getInstance()
15         return null;
16     }
```

```
15     /** 整列化モジュールの説明(主に手法)を答える */
16     @Override
17     public abstract String toString();
18
19     /** 引数で与えられた配列内の要素を昇順に並べ替える */
20     public abstract void sort(int[] a);
21 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n HeapsortIntArray.java
```

```
1 /**
2  * int配列内の要素をheapsort手法で昇順に並べ替える機能
3  * を備えた整列化モジュールを作り出すためのクラス
4  */
```

```
5 public class HeapsortIntArray
           extends SortModuleForIntArray {
6     //クラス内部でインスタンスを1個だけ生成
7     // (コンストラクタはprivate宣言してあるので、 )
8     // (生成されるインスタンスはこの1個だけになり、 )
9     // (これが使い回されることになる。 )
10    private static final HeapsortIntArray
           INSTANCE = new HeapsortIntArray();
11
12    //コンストラクタ (外部からインスタンス生成不可)
13    private HeapsortIntArray() {
14        super();
15    }
16
17    /** コンストラクタの代わりに外部に整列化モジュール
           を提供する窓口 */
18    public static HeapsortIntArray getInstance() {
19        return INSTANCE;
20    }
```

```
21
22  /** 整列化モジュールの説明(主に手法)を答える */
23  @Override
24  public String toString() {
25      return "Heapsort module";
26  }
27
28  /** 引数で与えられた配列内の要素をheapsort手法で... */
29  @Override
30  public void sort(int[] a) {
31      //下からheapを構築してゆく
32      for (int k=a.length/2-1; k>=0; --k)
33          heapify(a, a.length, k, a[k]);
34
35      //大きい順にheapから取り出してゆく
36      for (int k=a.length-1; k>=1; --k) {
37          int tmp = a[k];
38          a[k] = a[0];
39          heapify(a, k, 0, tmp);
```

```

40     }
41 }
42
43 /*-----<privateメソッド>-----
44 * 番号 hole の節点より下の部分がheapの条件を満たす...
45 * 新要素を加えてhole以下の部分がheapの条件を満たす...
46 * (詳細): 番号 hole の節点のデータ記憶域は空で、そ...
47 *   という値がどの節点にも記録されていない、また、hole
48 *   部分がheapの条件を満たしている、という状況を...
49 *   この様な状況の時に、holeより下にあるデータを上...
50 *   する操作を繰り返し行い、適当な時点で空の節点に...
51 *   newElement を割り当てることにより、hole以下...
52 *   heapの条件を満たす様にする。
53 *
54 * @param a      int 型配列
55 * @param treeSize 2分木と見做す部分配列(a[0],a[1],
56 * @param hole   a[0]~ a[treeSize-1]の表す2分木...
57 * @param newElement 2分木の節点に振り分けていない...
58 */

```

```
59     private void heapify(int[] a, int treeSize,
60                          int hole, int newElement) {
61
62         int siftupCand;        //siftup candidate
63
64         while ((siftupCand = hole*2+1) < treeSize) {
65             if (siftupCand+1<treeSize           //右.
66                 && a[siftupCand]<a[siftupCand+1]) //右.
67                 ++siftupCand;                   //大.
68             //右の子が
69             if ( newElement >= a[siftupCand])
70                 break;                          //newElementをholeの場...
71
72             a[hole] = a[siftupCand];             //sift up
73             hole    = siftupCand;
74         }
75         a[hole] = newElement;
76     }
77
78     //-----単体での動作テスト用-----
```

```
77     public static void main(String[] args) {
78         int[] a = {9, 8, 6, 7, 5, 3, 1, 2, 4, 0};
79         getInstance().sort(a);
80         System.out.println("after sorting ("
                               + getInstance() + "):");
81         System.out.print("  a = {");
82         for (int i=0; i<a.length-1; ++i)
83             System.out.print(a[i] + ", ");
84         System.out.println(a[a.length-1] + "}");
85     }
86 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac HeapsortIntArray.java
```

```
[motoki@x205a]$ java HeapsortIntArray
```

```
after sorting (Heapsort module):
```

```
  a = {0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9}
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n BubblesortIntArray.java
```

```
1 /**
```

```
2  * int 配列内の要素を bubblesort 手法で昇順に並べ替える機能
```

```
3  * を備えた整列化モジュールを作り出すためのクラス
```

```
4  */
5  public class BubblesortIntArray
        extends SortModuleForIntArray {
6      //クラス内部でインスタンスを1個だけ生成
7      // (コンストラクタはprivate宣言してあるので、 )
8      // (生成されるインスタンスはこの1個だけになり、 )
9      // (これが使い回されることになる。 )
10     private static final BubblesortIntArray
            INSTANCE = new BubblesortIntArray();
11
12     //コンストラクタ (外部からインスタンス生成不可)
13     private BubblesortIntArray() {
14         super();
15     }
16
17     /** コンストラクタの代わりに外部に整列化モジュールを...
18     public static BubblesortIntArray getInstance() {
19         return INSTANCE;
20     }
```


21

22 `/** 整列化モジュールの説明(主に手法)を答える */`23 `@Override`24 `public String toString() {`25 `return "Bubblesort module";`26 `}`

27

28 `/** 引数で与えられた配列内の要素を bubblesort 手法で...`29 `@Override`30 `public void sort(int[] a) {`31 `for (int i=0; i<a.length-1; ++i) {`32 `for (int j=a.length-1; j>i; --j) {`33 `if (a[j-1] > a[j]) {`34 `int temp = a[j-1]; //a[j-1] と a[j]`35 `a[j-1] = a[j]; //の大小を調べ..`36 `a[j] = temp; //逆順なら交換`37 `}`38 `}`

```
39     }
40 }
41
42 //-----単体での動作テスト用-----
43 public static void main(String[] args) {
44     int[] a = {9, 8, 6, 7, 5, 3, 1, 2, 4, 0};
45     getInstance().sort(a);
46     System.out.println("after sorting ("
47                         + getInstance() + "):");
48     System.out.print("  a = {");
49     for (int i=0; i<a.length-1; ++i)
50         System.out.print(a[i] + ", ");
51     System.out.println(a[a.length-1] + "}");
52 }
```

```
[motoki@x205a]$ java BubblesortIntArray
```

```
after sorting (Bubblesort module):
```

```
  a = {0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9}
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n LListsortIntArray.java
```

```
1 /**
2  * (1)int 配列内の要素を次々と連結リストの大小順を保つ
3  *   位置に挿入していき、
4  *   それが終わったら、(2)連結リストに保持されたものを
5  *   順にint 配列内に移す、
6  *   という手法で昇順に並べ替える機能を備えた
7  *   整列化モジュールを作り出すためのクラス
8  */
9 public class LListsortIntArray
10     extends SortModuleForIntArray {
11     //クラス内部でインスタンスを1個だけ生成
12     // (コンストラクタはprivate宣言してあるので、 )
13     // (生成されるインスタンスはこの1個だけになり、 )
14     // (これが使い回されることになる。 )
15     private static final LListsortIntArray
16         INSTANCE = new LListsortIntArray();
17
18     //コンストラクタ (外部からインスタンス生成不可)
19     private LListsortIntArray() {
```

```
16         super();
17     }
18
19     /** コンストラクタの代わりに外部に整列化モジュールを...
20     public static LListsortIntArray getInstance() {
21         return INSTANCE;
22     }
23
24     /** 整列化モジュールの説明(主に手法)を答える */
25     @Override
26     public String toString() {
27         return "sort module that is based on insertion
28     }
29
30     /** 連結リストへの挿入に基づく手法で、
31     * 引数で与えられた配列内の要素を昇順に並べ替える */
32     @Override
33     public void sort(int[] a) {
34         LinkedListOfInt list = new LinkedListOfInt();
```

```
35
36 //配列内の要素を連結リストに挿入(大小順を保つ)
37 for (int i=0; i<a.length; ++i)
38     list.insert(a[i]);
39
40 //連結リストに保持されたものを順にint配列内に移...
41 list.getOutContents(a);
42 }
43
44 //-----単体での動作テスト用-----
45 public static void main(String[] args) {
46     int[] a = {9, 8, 6, 7, 5, 3, 1, 2, 4, 0};
47     getInstance().sort(a);
48     System.out.println("after sorting ("
49                         + getInstance() + "):");
49     System.out.print("  a = {");
50     for (int i=0; i<a.length-1; ++i)
51         System.out.print(a[i] + ", ");
52     System.out.println(a[a.length-1] + "}");
```

```
53     }
```

```
54 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n LinkedListOfInt.java
```

```
1  /**
```

```
2   * int データ群を小さい順に連結リストで保持する  
                                     オブジェクトのクラス
```

```
3  */
```

```
4  public class LinkedListOfInt {
```

```
5     //連結リストを構成する基本要素を表すオブジェクト  
                                     のクラス
```

```
6     private static class Node { 入れ子クラス
```

```
7         private int    intData;
```

```
8         private Node   next;
```

```
9
```

```
10        //コンストラクタ
```

```
11        public Node(int intData, Node next) {
```

```
12            this.intData    = intData;
```

```
13            this.next      = next;
```

```
14        }
```

```
15
16 //Nodeインスタンスの標準的な文字列表現を定める
17 @Override
18 public String toString() {
19     return "node of int data " + intData;
20 }
21
22 //このNode以降の「小さい順」を保てる場所に新要...
23 public void insertAscendingOrder(int newInt) {
24     if (next==null || newInt<=next.intData)
25         next = new Node(newInt, next);
26     else
27         next.insertAscendingOrder(newInt);
28 }
29
30 //このNode以降に蓄えられた内容を配列aのindex...
31 public void getOutContents(int[] a, int index)
32     a[index] = intData;
33     if (next != null)
```

```
34         next.getOutContents(a, index+1);
35     }
36 }
37 //-----
38
39 private Node head;
40
41 /** intデータを小さい順に保持する連結リストとして空の...
42 public LinkedListOfInt() {
43     head = null;
44 }
45
46 /** LinkedListOfIntインスタンスの標準的な文字列表現...
47 @Override
48 public String toString() {
49     return "linked list of int data\n"
50         + "    that are sorted by ascending order
51 }
52
```



```
53     /** データの小さい順を保てる場所に(引数の)新要素を挿...
54     public void insert(int newInt) {
55         if (head==null || newInt<=head.intData)
56             head = new Node(newInt, head);
57         else
58             head.insertAscendingOrder(newInt);
59     }
60
61     /** 連結リストに蓄えられた内容を記録された順に(引数の).
62     public void getOutContents(int [] a) {
63         if (head != null)
64             head.getOutContents(a, 0);
65     }
66 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac LListsortIntArray.java
```

```
[motoki@x205a]$ java LListsortIntArray
```

```
after sorting (sort module that is based on insertion in a list)
```

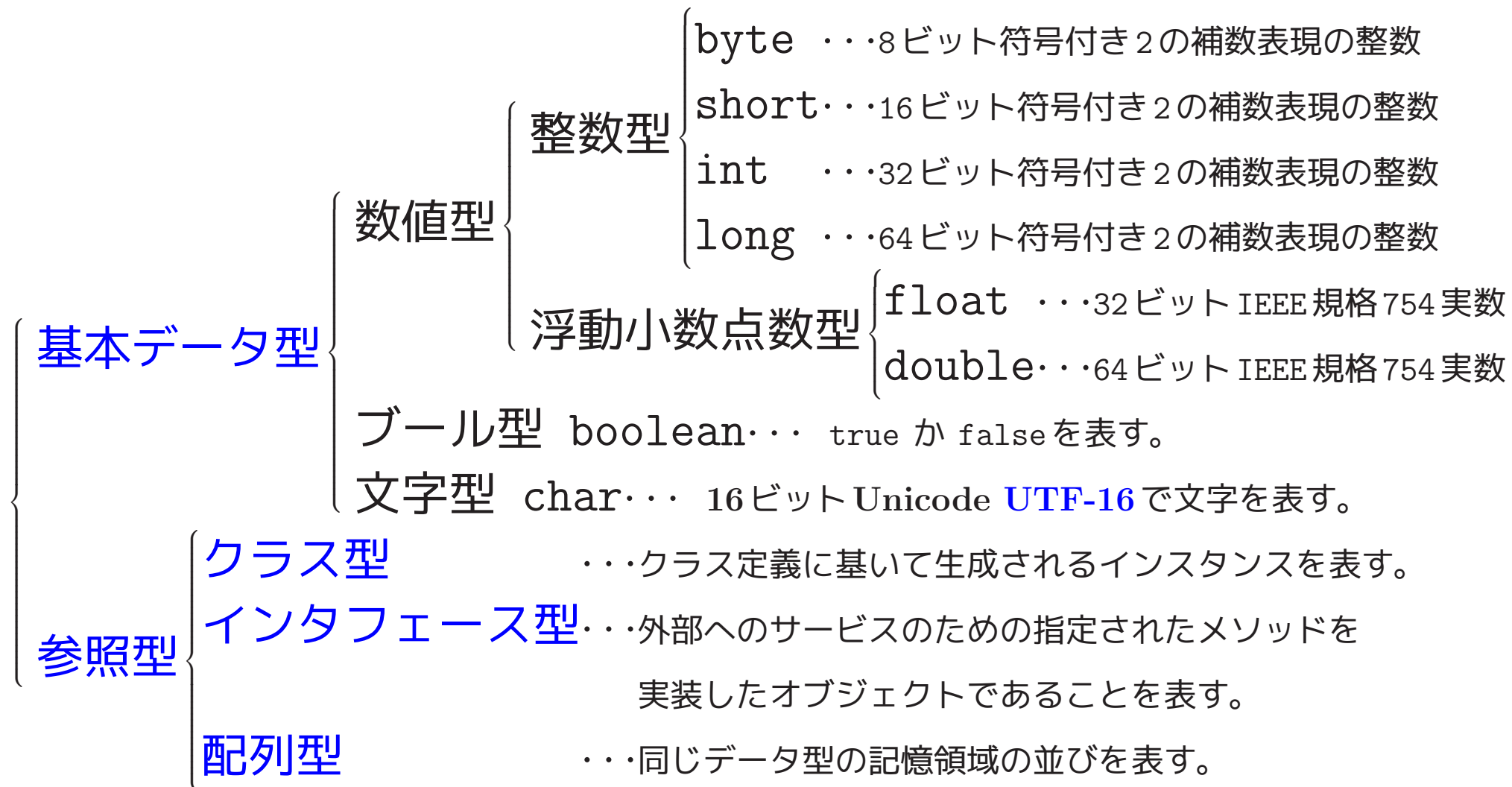
```
a = {0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9}
```

```
[motoki@x205a]$
```

```
----
```

22-8 Javaの扱う型とラッパークラス, ボクシング

Javaの扱うデータ型の分類 : Javaにおけるデータ型は次のように分類できる。



ラッパークラス:

基本データ型のデータをオブジェクトとして扱いたい

⇒ **基本データ型データをカプセル化したオブジェクトのクラス**
が用意されている。

ラッパークラス

具体的には、

<u>基本データ型</u>	→	<u>ラッパークラス</u>	<u>基本データ型</u>	→	<u>ラッパークラス</u>
byte	→	Byte	float	→	Float
short	→	Short	double	→	Double
int	→	Integer	boolean	→	Boolean
long	→	Long	char	→	Character

例えば

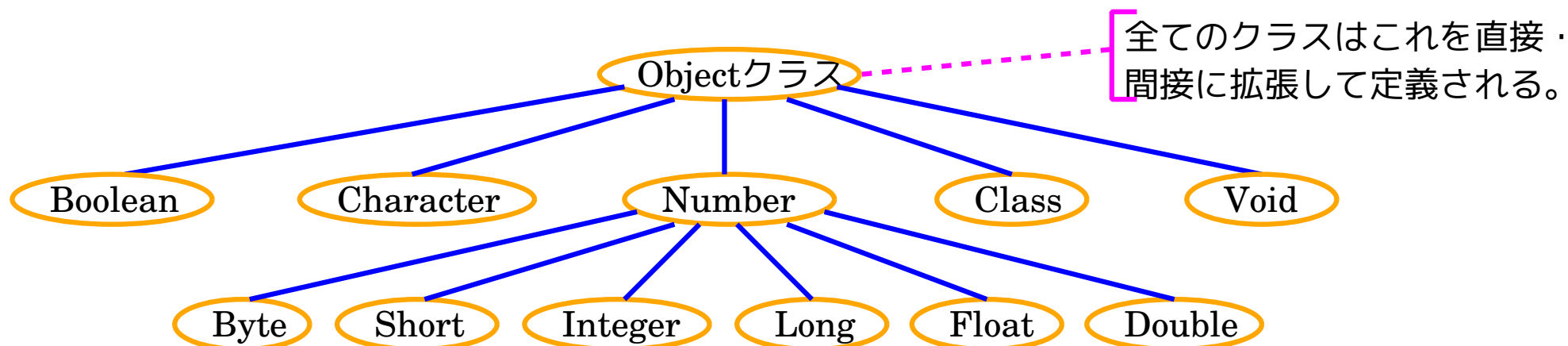
```
new Integer( int型の式 )
```

という風には書けば int データをカプセル化したオブジェクトが出来る。

クラス階層は → 次の通り

クラス階層は → 次の通り

(数値型全体を統合的に扱うために Number という抽象クラス)



補足：

Void... メソッドの戻り値がないことを表す voidに対応。

Class... クラスについての情報を保持しているオブジェクトのクラス。
(ついでに書いたが、これはラッパークラスではない。)

ラッパークラスに備わっているフィールドとメソッド：

Voidクラスを除く各ラッパークラスに、次の定数、コンストラクタ、メソッドがほぼ共通に備わっている。

定数 (クラスフィールド)

メソッド名	説明
<pre>public static final</pre> ...	対応する基本データ型 <code>MIN_VALUE</code> (Boolean以外) ... 対応する基本データ型で表現可能な最小値。
<pre>public static final</pre> ...	対応する基本データ型 <code>MAX_VALUE</code> (Boolean以外) ... 対応する基本データ型で表現可能な最大値。
<pre>public static final int</pre> ...	<code>SIZE</code> (Boolean以外) ... 対応する基本データ型で値を表現するのに使われるビット数。
<pre>public static final Class<</pre> ...	<code>ラッパークラス</code> > <code>TYPE</code> ... <code>ラッパークラス</code> に対応する基本データ型を表している <code>Class</code> オブジェクトへの参照。

コンストラクタ

メソッド名	...	説明
-------	-----	----

<code>ラッパークラス</code>	(<code>対応する基本データ型</code>	<code>a</code>)
----------------------	---	-------------------------	------------------

... 基本データ `a` を基に `ラッパークラス` のインスタンスを生成。

<code>ラッパークラス</code>	(<code>String s</code>)
----------------------	---	-------------------------

... 文字列 `s` を `ラッパークラス` に対応する基本データを表すと見做して、その表すデータを基に `ラッパークラス` のインスタンスを生成。

クラスメソッド

メソッド名	説明
<code>public static</code> <code>ラッパークラス</code> <code>valueOf(</code> <code>対応する基本データ型</code> <code> a)</code>	… 基本データ a を基に <code>ラッパークラス</code> のインスタンスを生成し、そこへの参照を返す。
<code>public static</code> <code>ラッパークラス</code> <code>valueOf(String s)</code> (Character以外)	… 文字列 s を <code>ラッパークラス</code> に対応する基本データを表すと見做して、その表すデータを基に <code>ラッパークラス</code> のインスタンスを生成し、そこへの参照を返す。
<code>public static</code> <code>対応する基本データ型</code> <code>parse</code> <code>ラッパークラス</code> (String s) (Character以外)	… 文字列 s を <code>ラッパークラス</code> に対応する基本データを表すと見做して、その表す基本データを返す。
<code>public static</code> String <code>toString(</code> <code>対応する基本データ型</code> <code> a)</code>	… 引数で指定された値 a の <code>対応する基本データ型</code> としての文字列表現を返す。

インスタンスメソッド

メソッド名	説明
<code>public int compareTo(ラッパークラス other)</code>	… <i>other</i> と比較して、 <i>other</i> より小の時は負、同じ時は0、 <i>other</i> より大の時は正の値を返す。
<code>public 対応する基本データ型 対応する基本データ型 Value()</code>	… メソッド実行の依頼を受けたラッパーオブジェクトの保持している基本データ値を返す。
<code>public String toString()</code>	… オブジェクトの文字列表現を返す。(Objectクラスのメソッドをオーバーライド)
<code>public boolean equals(Object obj)</code>	… <i>obj</i> と同じ型で同じ値を保持しているかどうかの判定結果を返す。(Objectクラスのメソッドをオーバーライド)
<code>public int hashCode()</code>	… ハッシュテーブルで使用されているハッシュコードを返す。(Objectクラスのメソッドをオーバーライド)

自動ボクシング, 自動アンボクシング:

ボクシング (変換) ... 基本データ型 → ラッパークラス型

アンボクシング (変換) ... ラッパークラス型 → 基本データ型

JDK1.5 (J2SE5.0, 2004) 以降では、

必要に応じて自動的にボクシング変換やアンボクシング変換が行われる。

例えば

```
Integer x = 100;
```

```
int a = x;
```

```
x = x + 20;
```

というコードが与えられた場合、コンパイラは次のコードの省略形が与えられたものと見做してコンパイル作業を行う。

```
Integer x = new Integer(100);
```

```
int a = x.intValue();
```

```
x = new Integer(x.intValue() + 20);
```

例22. 8 (J.Bloch(2008),p.23; 自動ボクシングで多数のオブジェクトが
次の様なコードを平気で書く様になるかもしれない。

```
[motoki@x205a]$ cat -n RemarkOnSuperfluousBoxingMain.java
 1 /**
 2  * 自動ボクシングにより多数のオブジェクトが生成され処理が
 3  * 遅くなる可能性があることを例示するためのJavaプログ...
 4  */
 5 public class RemarkOnSuperfluousBoxingMain {
 6     public static void main(String[] args) {
 7         Long sum = 0L;
 8         for (long i=0; i<=Integer.MAX_VALUE; ++i) {
 9             sum += i;
10         }
11         System.out.println("0+1+2+...+Integer.MAX_VALUE");
12     }
13 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac RemarkOnSuperfluousBoxingMain.java  
[motoki@x205a]$ time java RemarkOnSuperfluousBoxingMain  
0+1+2+...+Integer.MAX_VALUE = 2305843008139952128
```

```
real 0m15.472s  
user 0m15.385s  
sys 0m0.177s  
[motoki@x205a]$
```

しかし、このプログラムの場合、
自動ボクシング変換により 全部で約 2^{31} 個の Long インスタンスが生成されることになり、実行時間は約 **15.4秒** となる。

一方、
7行目で宣言している型を Long 型 から long 型 に変更するだけで、9行目でのオブジェクト生成が無くなり、その結果、次の会話例で示される様にプログラムの実行時間は約 **5.3秒** に短縮される。

```
[motoki@x205a]$ cat -n RemarkOnSuperfluousBoxingMain2.java
```

```
1 /**
2  * 自動ボクシングにより多数のオブジェクトが生成され処理
3  * が遅くなる可能性があることを例示するためのJavaプロ...
4  */
5 public class RemarkOnSuperfluousBoxingMain2 {
6     public static void main(String[] args) {
7         long sum = 0L;
8         for (long i=0; i<=Integer.MAX_VALUE; ++i) {
9             sum += i;
10        }
11        System.out.println("0+1+2+...+Integer.MAX_VALUE
12    }
13 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac RemarkOnSuperfluousBoxingMain2.java
```

```
[motoki@x205a]$ time java RemarkOnSuperfluousBoxingMain2
```

```
0+1+2+...+Integer.MAX_VALUE = 2305843008139952128
```

```
real 0m5.294s  
user 0m5.278s  
sys 0m0.013s  
[motoki@x205a]$
```

22-9 多態性

一般のプログラミング言語で、
1つの変数やメソッド修正（または関数呼出し）が実行時の状況により色々に振舞える能力を多態性（多相性，ポリモーフィズム）と呼ぶ。

多態変数 ... 実行の状況に応じて色々なデータ型の値を持てる変数
 多態引数 ... // 引数
 (純)多態関数 ... 多態引数を持つ関数

関数実体(1つ)の内部で、実引数のデータ型に応じて適切な処理内容が選択される。

多重定義 ... 1つの関数名や演算記号に対して
 引数のデータ型毎に別々の関数本体，演算処理が定義される

⇒ 多態関数を呼び出す側では
 ___ 多態引数のデータ型に応じて呼出す関数を切り替える必要が無い。

例 22. 9 (C言語における演算記号の多重定義)

+演算子 { 整数 の加算を行う時の処理
実数 の加算を行う時の処理
(Java) 文字列を繋げる働き

```
System.out.println("e = " + e);
```

非オブジェクト指向言語における
代表的な多重定義・多態性の例

例22. 10 (Java, メソッドの多重定義)

```
[motoki@x205a]$ cat -n ExampleOfOverloadMain.java
```

```
1 /**
2  * メソッドの多重定義を例示するためのJavaプログラム
3  */
4 public class ExampleOfOverloadMain {
5     public static void main(String args[]) {
6         display(33);
7         display(33.0);
8     }
9
10    static void display(int num){ 多重定義
11        System.out.println("int :" + num);
12    }
13
14    static void display(double num){ 多重定義
15        System.out.println("double :" + num);
16    }
17 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac ExampleOfOverloadMain.java
```

```
[motoki@x205a]$ java ExampleOfOverloadMain
```

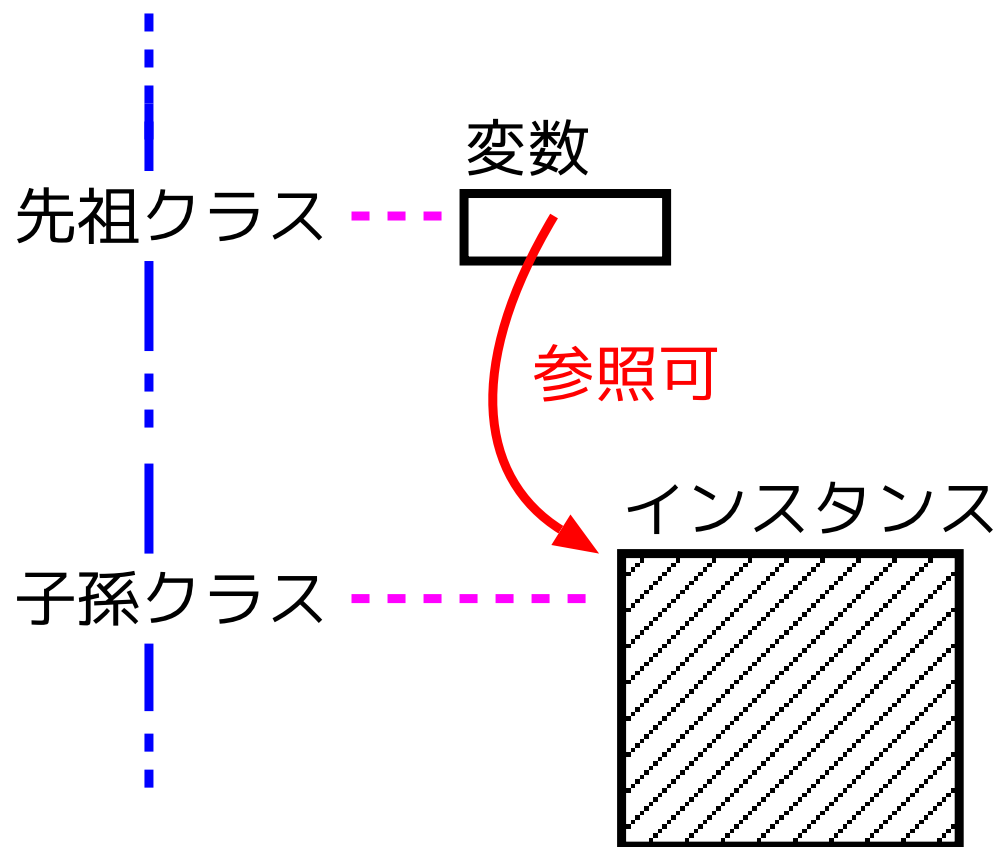
```
int :33
```

```
double :33.0
```

```
[motoki@x205a]$
```


スーパークラスとサブクラスの関係を親子関係と見たクラス階層で、

- 祖先に位置するクラスの型を持つ変数は、その子孫に位置するクラスのインスタンス(への参照)を値として持つことができる。



⇒ (少なくとも潜在的には) どれも多態変数になる。

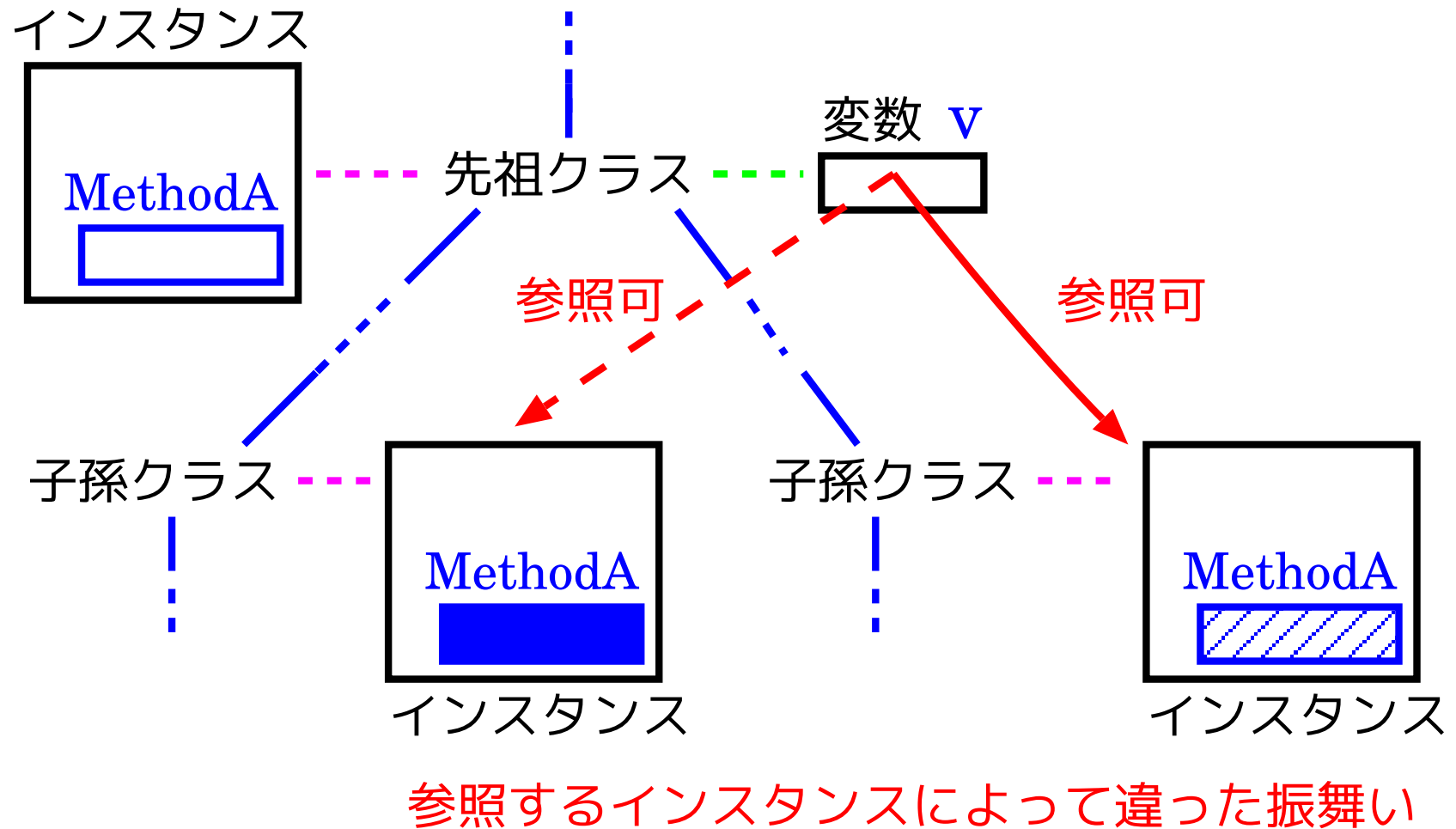
- クラス階層の葉節点以外の位置にクラス `Ancestor` があり、そのクラス内にインスタンスメソッド `MethodA` が備わっているとします。いま、

`Ancestor v ;`

という変数 `v` が子孫クラスのインスタンスを参照する時、

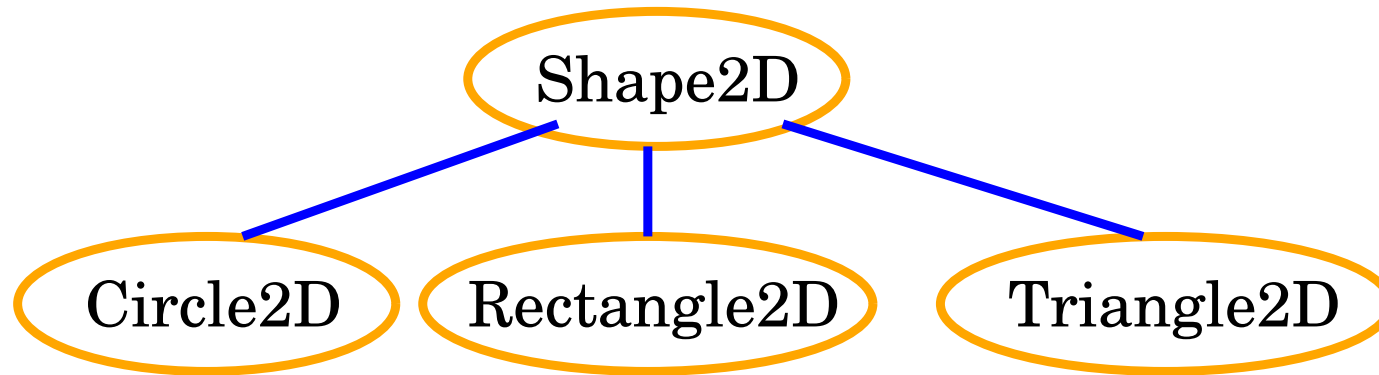
プログラム内で `v.MethodA([引数列])` と書くことによって、
`v` の参照するインスタンス自身が保持するインスタンスメソッド `MethodA` が呼び出される。

… (MethodAがオーバーライドされていた場合は、
Ancestor内で定義されたMethodA
ではなく
オーバーライドされた結果のMethodA
が呼び出される。)



- ⇒ 子孫クラスの各々が独自にオーバーライドしたインスタンスメソッド MethodA を持つ場合は、字面上は同じ `v.MethodA` (引数列) でも、`v` がどの子孫クラスのインスタンスになっているかに応じて MethodA は **色々な振る舞い (多態性)** を見せてくれる。

例22. 11 (2次元座標上の図形オブジェクト群の統一的な扱い, メソッド)
例22.6で考えた4つのクラス Shape2D, Circle2D, Rectangle2D,
Triangle2D の間には



というクラス継承関係があり、

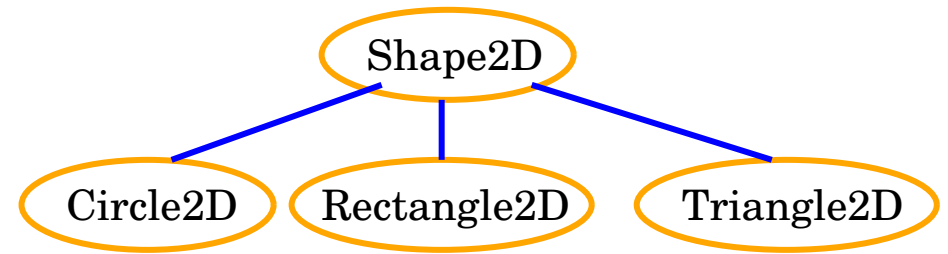
`Shape2D fig;`

と宣言されていれば、変数 `fig` は Circle2D のインスタンス(への参照)を値として持つこともできるし、Rectangle2D や Triangle2D のインスタンス(への参照)を値として持つこともできる。

⇒ 変数 `fig` は多態変数

さらに、

- スーパー (抽象) クラスである Shape2D の中で宣言されている `getArea()` というインスタンスメソッドは各々のサブクラス内でオーバーライドされているので、



`fig.getArea()`

と書くだけで、

figが Circle インスタンスであるかどうか、

Rectangle インスタンスであるかどうか、

Triangle インスタンスであるかどうか

に応じて、自動的に適切な処理を選択して計算結果を返してくれる。

同様に、`toString()` も多態的に振舞う

多態性によって、

⇒ メソッドを使う側への負担は少なくなる。


```
18         fig = new Rectangle2D(0.0, 0.0, 1.0, 2.0);
19         System.out.printf("fig = %s%n" +
20                             " ==> fig.getArea() = %g%n",
21                             fig, fig.getArea());
22
23         fig = new Triangle2D(0.0, 0.0, 2.0, 0.0, 1.0, 1.0);
24         System.out.printf("fig = %s%n" +
25                             " ==> fig.getArea() = %g%n",
26                             fig, fig.getArea());
27     }
28 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac TestShape2DMain.java
```

```
[motoki@x205a]$ java TestShape2DMain
```

```
fig = circle[id=1] of center (1.0,0.0) and radius 2.0
```

```
==> fig.getArea() = 12.5664
```

```
fig = rectangle[id=2] of vertices (0.0,0.0), (1.0,0.0), (1.0,2.0)
```

```
==> fig.getArea() = 2.00000
```

```
fig = triangle[id=3] of vertices (0.0,0.0), (2.0,0.0), (1.0,1.0)
```

```
==> fig.getArea() = 1.00000
```

```
[motoki@x205a]$
```

補足：

プログラム 11行目 を `Object fig;` と書き換えた場合、`fig`は多態変数になる。

しかし、この`fig`を多態的に振舞わせようとしても適用できるインスタンスメソッドは元々`Object`に備わっていた名前のものだけ

```
[motoki@x205a]$ cat TestShape2DMain2.java
class TestShape2DMain2 {
    public static void main(String args[]) {
        Object fig = new Circle2D(1.0, 0.0, 2.0);
        System.out.printf("fig = %s%n", fig);
    }
}

[motoki@x205a]$ javac TestShape2DMain2.java
[motoki@x205a]$ java TestShape2DMain2
fig = circle[id=1] of center (1.0,0.0) and radius 2.0
[motoki@x205a]$ cat TestShape2DMain3.java
class TestShape2DMain3 {
```



```
public static void main(String args[]) {  
    Object fig = new Circle2D(1.0, 0.0, 2.0);  
    System.out.printf(" ==> fig.getArea() = %g%n",  
        fig.getArea());  
}  
}
```

```
[motoki@x205a]$ javac TestShape2DMain3.java
```

```
TestShape2DMain3.java:5: シンボルを見つけられません。
```

```
シンボル: メソッド getArea()
```

```
場所      : java.lang.Object のクラス
```

```
fig.getArea());  
      ^
```

エラー 1 個

```
[motoki@x205a]$
```

例題22. 12 (整列化モジュールの動作テストを担当するモジュール)

例題22.7で定義した3つのクラス HeapsortIntArray, BubblesortIntArray, LListsortIntArray は共通の抽象スーパークラスをもっている。従って、多態変数/多態性の考えを用いることにより、**これらのインスタンス** (整列化モジュール) **を統合的に扱う**ことが出来る。これを体験するために、この種の整列化モジュールの提供する「int配列内の要素を昇順に並べ替える機能」が正しく動作するかどうかを**例題13.2に倣ってテストする機能**、すなわち

①0~ 999の間のランダムな整数を要素とする

大きさ100の配列を生成し、

②それに対して与えられた整列化モジュールを適用して

並べ替え作業を行い、

③その結果を出力する、

という風にテストする機能を備えたモジュールのクラスを定義してみよ。

(考え方)

共通の抽象スーパークラスが `SortModuleForIntArray`

⇒ `SortModuleForIntArray` 型の変数を引数に持ち、
引数で与えられた整列化モジュールに対して
所定の動作テストを施すインスタンスメソッド
を備えたモジュールのクラスを定義すれば良い。

その際、

- 擬似乱数の生成に関しては
ライブラリ内の `java.util.Random` というクラスを利用できる。

(プログラミング)

```
[motoki@x205a]$ cat -n TesterForSortModuleIntArray.java
 1 import java.util.Scanner;
 2 import java.util.Random;
 3
 4 /**
 5  * SortModuleForIntArrayモジュールの提供する
 6  * 「int配列内の要素を昇順に並べ替える機能」が
 7  * をテストする機能を備えたモジュールを作り出すためのクラ...
 8  */
 9 public class TesterForSortModuleIntArray {
10     private static final int SIZE =100;
11     private static final int WIDTH = 10;
12
13     private Scanner inputScanner;
14
```

```
15    /** 整列化モジュールの動作テストを行うモジュールを構.. *
16    public TesterForSortModuleIntArray() {
17        this.inputScanner = new Scanner(System.in);
18    }
19
20    /** 指定された所から得た擬似乱数シードを用いて
21    * 整列化モジュールの動作テストを行うモジュールを構成..
22    public TesterForSortModuleIntArray(
23        Scanner inputScanner) {
24        this.inputScanner = inputScanner;
25    }
26    /** オブジェクトの説明を答える */
27    @Override
28    public String toString() {
29        return "Tester for module that is to sort int c
30    }
31
```

```
32  /** SIZE個のランダムなデータから成る配列に対して
33  * 引数で与えられた整列化モジュールを実行してみる */
34  public void runOnRandomData(抽象クラス 多態変数
                               SortModuleForIntArray sortModule) {
35      int [] a = new int [SIZE];
36
37      //擬似乱数の設定
38      System.out.print("擬似乱数の初期シード (long値): ");
39      long seed = inputScanner.nextLong();
40      Random randomGenerator = new Random(seed);
41
42      //配列aの各々の要素に0~999の乱数値を設定
43      for (int i=0; i<a.length; ++i)
44          a[i] = randomGenerator.nextInt(1000);
45
46      //整列化前の配列の内容を表示
47      System.out.printf("%nbefore sorting:%n");
48      prettyPrint(a);
49  }
```

```
50         //整列化
51         sortModule.sort(a);
52
53         //整列化後の配列の内容を表示
54         System.out.println("after sorting("
                               + sortModule + "):");
55         prettyPrint(a);
56     }
57
58     /*-----<privateメソッド>-----
59     * 引数で与えられた配列の要素を順に全て出力(1行にWIDTH
60     private void prettyPrint(int[] a) {
61         int NumOfEleInLine=0;
62
63         for (int i=0; i<a.length; ++i) {
64             System.out.printf("%7d", a[i]);
65             ++NumOfEleInLine;
66             if (NumOfEleInLine >= WIDTH) {
67                 System.out.println();
```

```
68         NumOfEleInLine = 0;
69     }
70 }
71     if (NumOfEleInLine > 0)
72         System.out.println();
73 }
74 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n TestSortModulesIntArrayMain.java
```

```
1 /**
2  * int 配列内の要素を昇順に並べ替える機能を備えた整列化モ...
3  * ・ HeapsortIntArray オブジェクト,
4  * ・ BubblesortIntArray オブジェクト,
5  * ・ LListsortIntArray オブジェクト
6  * の3つを考え、これらが正しく整列化動作をするかどうかを
7  *     整列化モジュールをテストする機能を備えた
8  *     TesterForSortModuleIntArray オブジェクト
9  *     を用いてテストするJavaプログラム
10 */
11 public class TestSortModulesIntArrayMain {
```



```
12     public static void main(String[] args) {
13         TesterForSortModuleIntArray
14             tester = new TesterForSortModuleIntArray();
15         色々な部品の組み合わせを試す
16         //HeapsortIntArray オブジェクトの動作テスト
17         tester.runOnRandomData(HeapsortIntArray.getInstance());
18         System.out.println("----");
19
20         //BubblesortIntArray オブジェクトの動作テスト
21         tester.runOnRandomData(BubblesortIntArray.getInstance());
22         System.out.println("----");
23
24         //LListsortIntArray オブジェクトの動作テスト
25         tester.runOnRandomData(LListsortIntArray.getInstance());
26     }
27 }
```

```
[motoki@x205a]$ javac TestSortModulesIntArrayMain.java
```

```
[motoki@x205a]$ java TestSortModulesIntArrayMain
```

```
擬似乱数の初期シード (long 値): 333
```

before sorting:

386	503	585	138	315	941	443	328	98
494	602	849	712	734	139	870	765	99
718	359	663	733	234	282	666	745	36
874	744	227	650	795	316	249	48	46
166	364	415	13	926	798	309	953	21
645	724	853	544	714	613	327	5	82
827	217	653	460	894	803	330	169	44
223	954	37	975	545	277	690	135	45
170	408	946	437	535	93	918	660	90
291	705	165	242	910	344	880	679	97

after sorting(Heapsort module):

5	13	37	48	82	93	135	138	13
166	169	170	210	217	223	227	234	23
245	249	277	282	291	309	315	316	32
330	344	359	361	364	386	408	415	42
437	443	447	456	460	465	494	503	51
544	544	545	585	602	613	618	645	65
660	663	666	679	690	705	712	714	71

733	734	734	744	745	765	795	798	80
827	849	853	870	874	880	894	901	90
918	926	941	946	953	954	975	978	98

擬似乱数の初期シード (long 値): [333](#)

before sorting:

386	503	585	138	315	941	443	328	98
494	602	849	712	734	139	870	765	99
718	359	663	733	234	282	666	745	36
874	744	227	650	795	316	249	48	46
166	364	415	13	926	798	309	953	21
645	724	853	544	714	613	327	5	82
827	217	653	460	894	803	330	169	44
223	954	37	975	545	277	690	135	45
170	408	946	437	535	93	918	660	90
291	705	165	242	910	344	880	679	97

after sorting(Bubblesort module):

5	13	37	48	82	93	135	138	13
---	----	----	----	----	----	-----	-----	----

166	169	170	210	217	223	227	234	23
245	249	277	282	291	309	315	316	32
330	344	359	361	364	386	408	415	42
437	443	447	456	460	465	494	503	51
544	544	545	585	602	613	618	645	65
660	663	666	679	690	705	712	714	71
733	734	734	744	745	765	795	798	80
827	849	853	870	874	880	894	901	90
918	926	941	946	953	954	975	978	98

擬似乱数の初期シード (long 値): [333](#)

before sorting:

386	503	585	138	315	941	443	328	98
494	602	849	712	734	139	870	765	99
718	359	663	733	234	282	666	745	36
874	744	227	650	795	316	249	48	46
166	364	415	13	926	798	309	953	21
645	724	853	544	714	613	327	5	82

827	217	653	460	894	803	330	169	44
223	954	37	975	545	277	690	135	45
170	408	946	437	535	93	918	660	90
291	705	165	242	910	344	880	679	97

after sorting(sort module that is based on insertion in a link

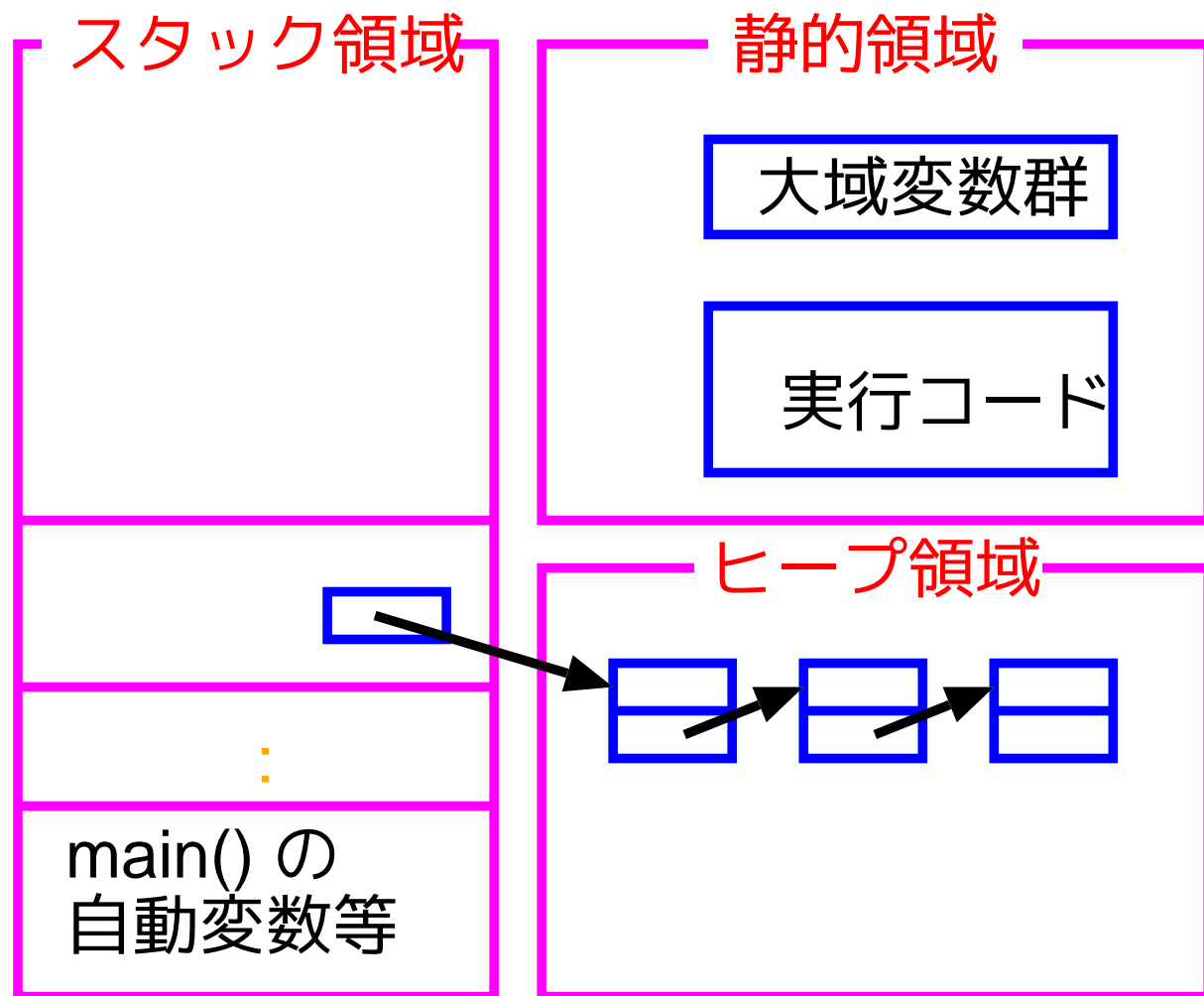
5	13	37	48	82	93	135	138	13
166	169	170	210	217	223	227	234	23
245	249	277	282	291	309	315	316	32
330	344	359	361	364	386	408	415	42
437	443	447	456	460	465	494	503	51
544	544	545	585	602	613	618	645	65
660	663	666	679	690	705	712	714	71
733	734	734	744	745	765	795	798	80
827	849	853	870	874	880	894	901	90
918	926	941	946	953	954	975	978	98

[motoki@x205a]\$

22-10 Javaにおけるメモリ領域の使い方

一般に、プログラム実行時にはメモリ領域は **静的領域**、**スタック領域**、**ヒープ領域** の3つに分けて管理される。

- **静的領域** ... 実行コード、大域変数等を格納。プログラム実行から終了まで内部配置は固定。
- **スタック領域** ... 関数呼び出しの柔軟な実現のために利用。
- **ヒープ領域** ... 動的なデータ記憶領域を確保したい時に利用。



オブジェクト指向プログラムを実行する際のメモリの使い方、

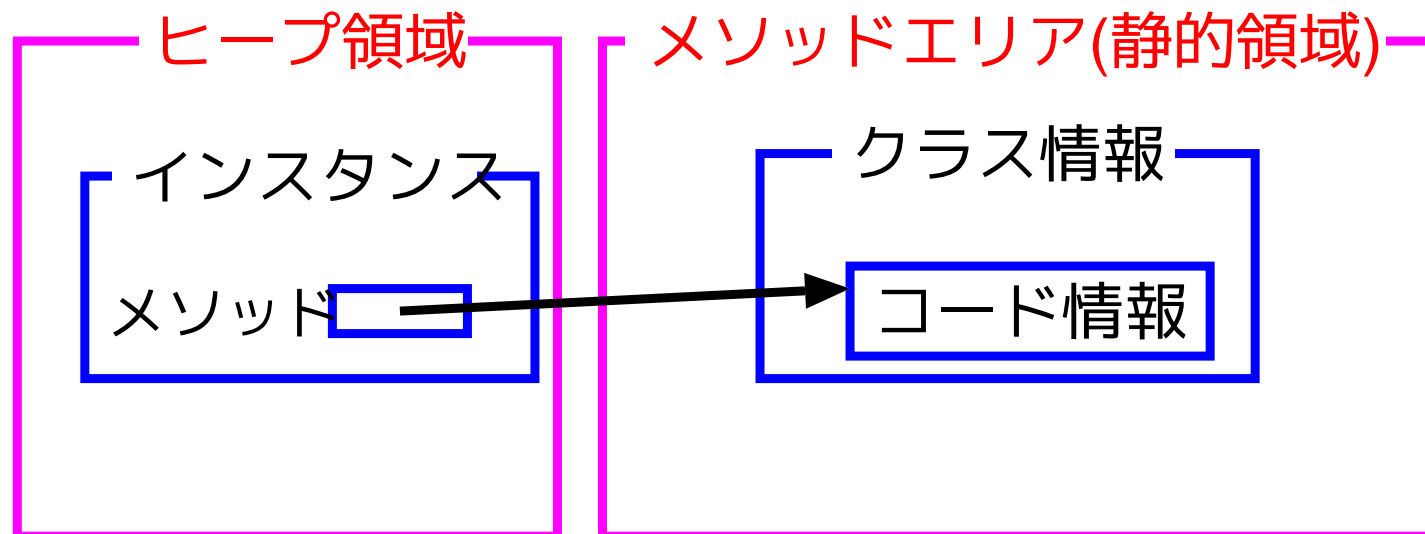
{ 基本的な枠組 ⇒ 上記の通り。
{ 細部 ⇒ 従来と異なる点もある。例えば、

- 例えば、Java では、
 - クラス情報は必要になった時点でロードされる方式。
⇒ クラス情報を格納する領域はもは静的ではない。
⇒ **メソッドエリア**と呼ばれている。
- オブジェクト指向の場合は、
 - インスタンスオブジェクトは全て動的に生成される。
⇒ **ヒープ領域**は頻繁に利用される。

特に Java の場合、

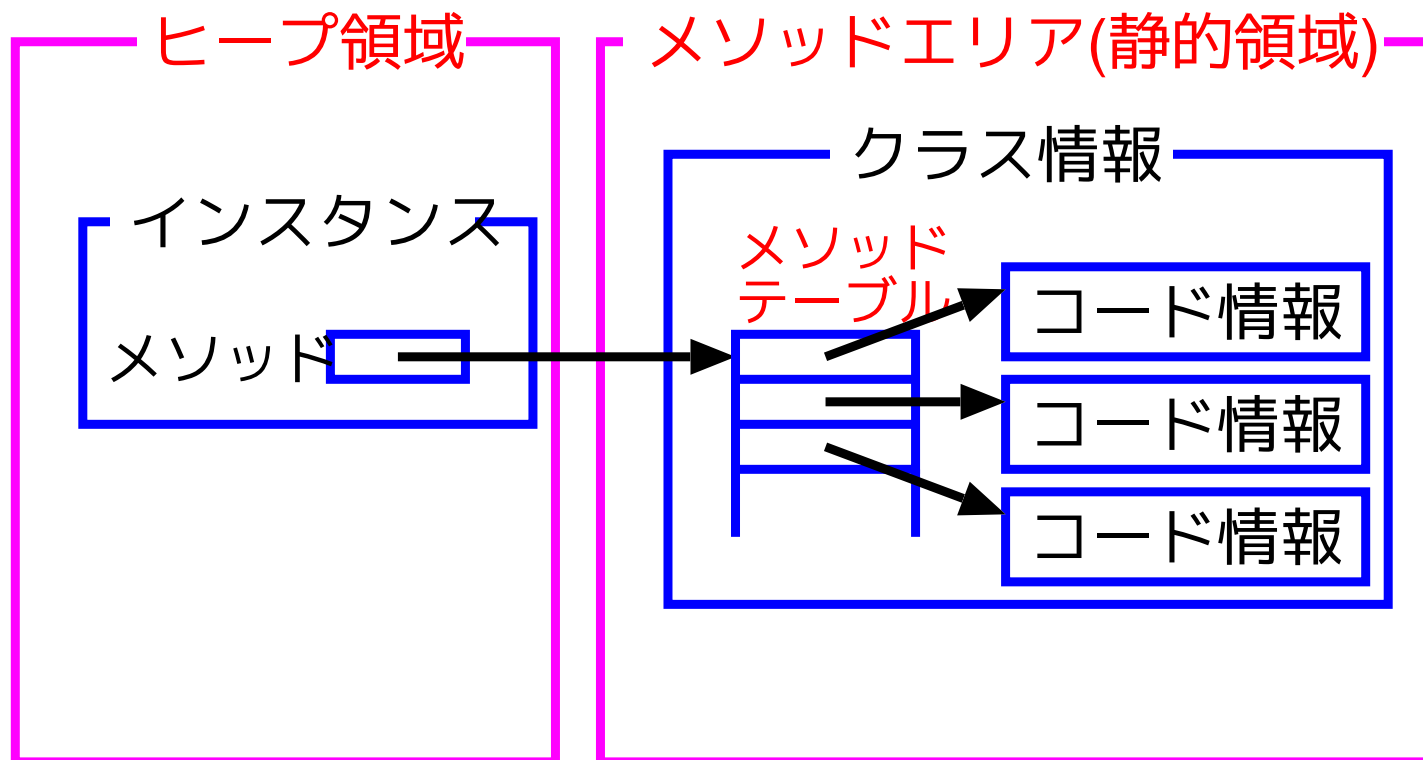
インスタンスオブジェクト関連のメモリ領域の使い方は...

- **new 演算子が実行されると、**
インスタンスのための領域がヒープ領域内に確保され、
確保された領域へのポインタが new 演算の結果の式の値となる。
- **インスタンスメソッドのコード情報は、**
クラス情報の一部としてメソッドエリア (静的領域) 内に配置され、
そこへの参照情報 (ポインタ) が個々のインスタンス領域の中に置かれる。



更に詳しく言うと、

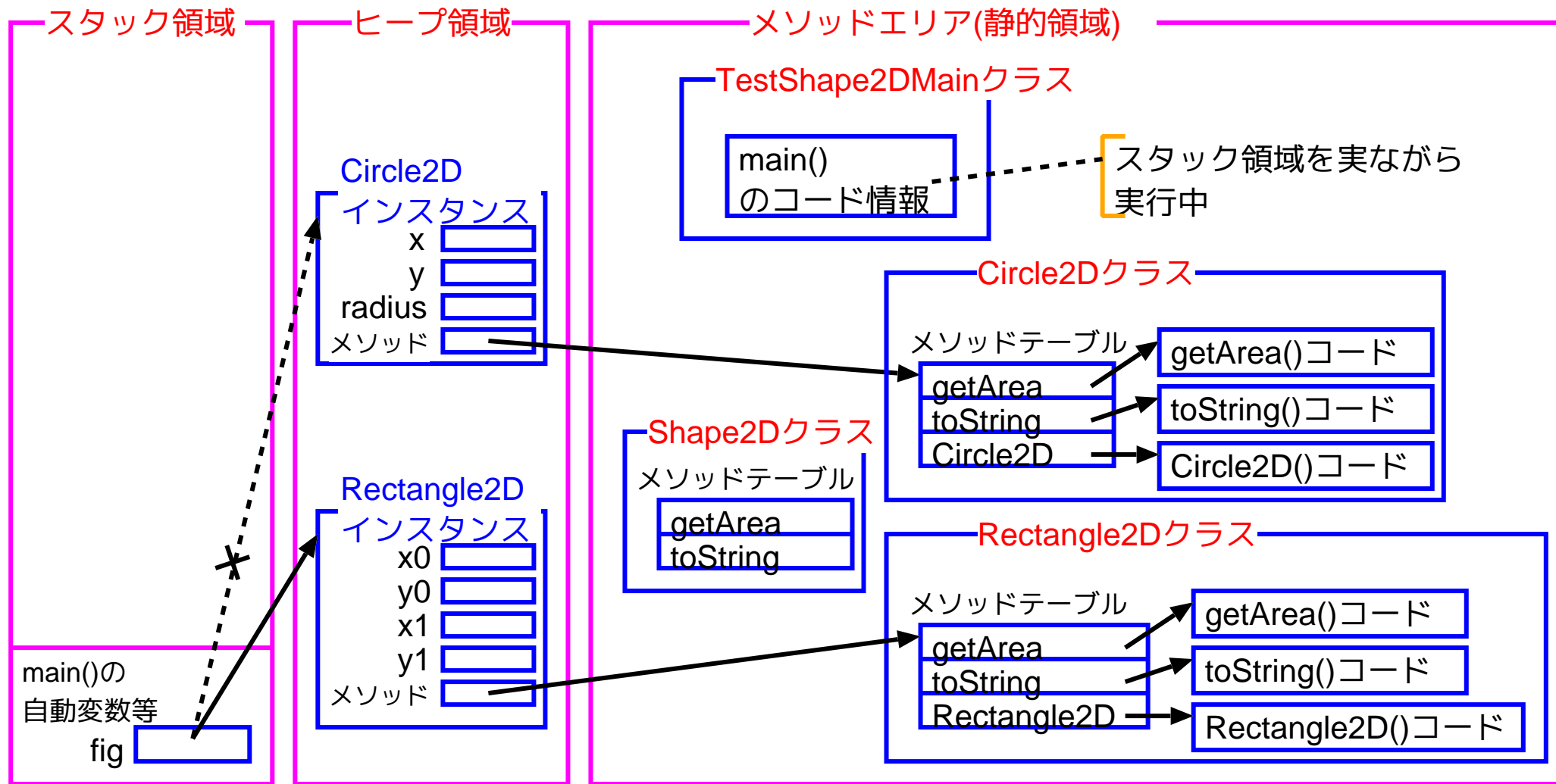
多態性の実装を容易に行うため、
クラス情報の領域内には、メソッドテーブルが配置され、個々のインスタンスの中にはそのメソッドテーブルへの参照情報だけが置かれることもある。



- ヒープ領域内では
自動的にガベージコレクションが行われる。

例22. 13 (Java, メソッドの多態性)

例22.11のプログラムの18行目を実行直には、メモリ内部の状態は次の様になっているものと考えられる。



22-11 単一継承とインタフェース

Javaでは、既定義クラスを拡張定義する際、拡張の基になるクラスを1つだけ指定する、という単一継承の原則が採用されている。

その理由：

複数のスーパークラス間に共通のメソッド等が存在する場合、どのスーパークラスのメソッド等をサブクラスに継承させるか、といった問題も発生して面倒なことになりかねない。

単一継承を採用

- ⇒ Objectクラスを頂点としたクラス階層（木構造）
- ⇒ 多態変数／多態性の考えを用いることにより、
クラス階層の下で類似したクラスを統合的に扱うことが出来る。

しかし、Object以外の共通の先祖クラスを持たないクラス同士でも、本質的に同じ役割を果たすメソッドを共通に持っていて、それらのメソッドを通してこれらのクラスを統合的に扱いたい場合もある。

こういった場合、 → 「インタフェース」を利用することが出来る。

インタフェース

… ソフトウェアモジュール間の相互作用の修正仕方 (i.e. 外部仕様) を規定した「契約」

- 多人数 / 多チームでの円滑なソフトウェア開発を促進。
- インタフェースはその機能 (メソッドの外部仕様) をもつクラス群の範囲をはっきりと規定する。

⇒ 逆に統合的に扱いたいクラス群があった場合、
それらのもつべき機能 (メソッドの外部仕様) をインタフェースとして定義すれば、

- ◇ そのインタフェースが元々統合的に扱いたかったクラス群の範囲を定めることになり、更には
- ◇ 「インタフェース型」の多態変数を用いる事により目的のクラス群を統合的に扱える様になる。

インタフェースの定義、利用 … 構文的には抽象クラスと類似

インタフェース定義の形式(通常) :

public または「なし」

既存インタフェースの拡張

アクセス修飾子 interface インタフェース名 …… {

型名 フィールド名 = **式**; **public static final** を暗黙に仮定

……

型名 フィールド名 = **式**;

戻り値の型 メソッド (**引数列**); **public abstract** を暗黙に仮定

……

→ static 不可

戻り値の型 メソッド (**引数列**);

}

- 定数フィールド, 抽象メソッド以外のメンバーとしては、
入れ子クラスや入れ子インタフェースも可。(詳細省略。)

インタフェースを実装したクラスの定義：

- `修飾子 class クラス名 implements インタフェース , ..., インタフェース {`

フィールドの宣言、メソッドの定義、など

`}`

あるいは、(既定義クラスを拡張する場合は)

- `修飾子 class クラス名 extends スーパークラス`
`implements インタフェース, ..., インタフェース {`

フィールドの宣言、メソッドの定義、など

`}`

- 実装を宣言したインタフェース内に明記されている全ての抽象メソッドの実装を行わなければならない。

インタフェース型変数の宣言：

クラスと同様に、**個々のインタフェースはデータ型として扱われ、**

```
インタフェース v;
```

という変数宣言によって、**v** は

インタフェース を実装したクラスのインスタンス

(への参照)を保持できる様になる。

⇒ インタフェース型の変数は、

- ◇ その**インタフェースを実装したインスタンスを統合的に扱うこと**を可能にし、
- ◇ その**インタフェース内に記述されているメソッドに関する多態的な振る舞い**を可能にする。

例22. 14 (Comparatorインタフェース) 例題22.4では、
 Comparator<IdIntPair>というインタフェースを実装した無名クラスを
 構成し、そのインスタンスを生成した。 → プログラム中の次の部分

```

58         new Comparator<IdIntPair> () {
59             public int compare(IdIntPair d1, IdIntPair d2) {
60                 return d1.stringData.compareTo(d2.stringData);
61             }
62         }

```

この部分は、次の記述の省略形と見ることもできる。

```

class Tmp implements Comparator<IdIntPair> {
    public int compare(IdIntPair d1, IdIntPair d2) {
        return d1.stringData.compareTo(d2.stringData);
    }
}
..... new Tmp() ....

```

例題22. 15 (時間計測モジュール, 整列化モジュールの動作速度を計測

例題14.3では、**時間計測**のためのモジュール `consumed_time.c` をC言語で実装した。これに相当するオブジェクトのクラスをJavaで実装せよ。**更に、**

例題22.7で考えたスーパー抽象クラス `SortModuleForIntArray.java` のサブクラスのインスタンス (整列化モジュール) に対して、**「int配列内の要素を昇順に並べ替える手順」の動作速度**を例題14.4の `clock-sort-5-10-etc.c` に倣って**計測**する機能、すなわち

要素数が 5, 10, 25, 50, 100, 200 の場合に対して

- ①問題例のランダムな設定,
- ②整列化プログラムの実行

を各々 800000回, 400000回, 160000回, 80000回, 40000回, 20000回 繰り返して1回あたりの計算時間を求め、その結果を出力する、

という機能を備えたモジュールのクラスを定義してみよ。

(考え方)

時間計測モジュールに関して、→ 次を利用可

- ThreadMXBean インタフェース

`ManagementFactory.getThreadMXBean()`... インタフェースを実装しているインスタンス(への参照)を取得

`インスタンス.getCurrentThreadCpuTime()` ... 現在のスレッドがそれまでに消費したCPU時間(ナノ秒単位, long型)

- RuntimeMXBean インタフェース

`ManagementFactory.getRuntimeMXBean()` **修正**... インタフェースを実装しているインスタンスを(への参照)を取得

`インスタンス.getUpTime()` ... Java仮想マシンのそれまでの稼働時間(ミリ秒単位, long型)

- System クラス ... `java.lang`パッケージ内

`System.currentTimeMillis()` ... 1970年1月1日0時0分からの経過時間(ミリ秒単位, long型; 計測値の粒度はOSによる)

これらのインタフェース/クラスに備わったメソッドを用いて **計測開始時点と計測終了時点との時間差**を求めるオブジェクトを生成出来る様にすれば良いだけ

ただ、C言語の場合の `consumed_time.c` と同じ様にしようとすると計測結果を入れる 構造体に相当するものの「クラス」が必要になる。

⇒ ここでは **新たなクラスを定義するのを避け、代わりに、**

◇ 計測終了時点を知らせる **合図(メソッド呼出し)**があると、

① その時点のCPU時間 / Java仮想マシン稼働時間 / カレンダー時刻を調べ、(インスタンス) 内部に保存してある時間量との差を求めて **内部の変数に記録**

② 先程の計測終了の 合図時点 に調べたCPU時間等の結果を計測開始時点のデータとしてインスタンス 内部の変数に記録 する。そして、

◇ **要求(メソッド呼出し)**に応じて、内部の変数に記録された

「 前々回のマーク時点から前回のマーク時点の間の時間 」を返す

整列化モジュールの動作速度を計測するモジュールに関しては、
例題 22.12 と同様に考えて、

SortModuleForIntArray 型の変数を引数に持ち、
引数で与えられた整列化モジュールに対して
所定の方法で動作速度の計測を行うインスタンスメソッド
を備えたモジュールのクラスを定義すれば良い。その際、

◇ 動作速度の計測を行う手順 については、

→ C 言語で同様の処理を行っている

`clock-sort-5-10-etc.c` (例題 14.4) を参考に

◇ 擬似乱数の生成 に関しては、

→ 例題 22.12 と同様に

ライブラリ内の `java.util.Random` というクラスを利用

(プログラミング) ここで関連するクラスとして、
StopWatch ... 時間計測モジュールのクラス、
TimerForSortModuleIntArray ... 整列化モジュールの動作速度を
計測するモジュールのクラス

そして、

TimeSortModulesIntArrayMain.java ... 例題22.7で作成した
クラス (HeapsortIntArray, BubblesortIntArray,
LListsortIntArray) から生成される
3つの整列化モジュール について、
TimerForSortModuleIntArray インスタンス を用いて
動作速度を計測

```
[motoki@x205a]$ cat -n Stopwatch.java  
1 import java.lang.management.ThreadMXBean;  
2 import java.lang.management.RuntimeMXBean;  
3 import java.lang.management.ManagementFactory;  
4
```

```
5 /**
6  * ストップウォッチ風に計算時間を測るためのオブジェクトの...
7  */
8 public class Stopwatch {
9     private ThreadMXBean threadMXBean;
10    private RuntimeMXBean runtimeMXBean;
11
12    /* 開始時間を保持*/
13    private long startCpuTime;    //ナノ秒,スレッドのCPU
14    private long startUpTime;    //ミリ秒,Java仮想マシ...
15    private long startRealTime;  //ミリ秒,カレンダー上の...
16
17    /* 最新の区間の時間計測結果を保持*/
18    private double lastIntervalCpuTime;    //秒,スレッド...
19    private double lastIntervalUpTime;    //秒,Java仮想...
20    private double lastIntervalRealTime;  //秒,カレンダー...
21
```

```
22     /** 計算時間計測のためのオブジェクトを生成 */
23     public Stopwatch() {
24         threadMXBean =
25             ManagementFactory.getThreadMXBean();
26         runtimeMXBean =
27             ManagementFactory.getRuntimeMXBean();
28
29         startCpuTime = -1; //エラー検査のため
30         startUpTime = -1;
31         startRealTime = -1;
32     }
33
34     /** 計算時間計測オブジェクトの標準的な文字列表現... */
35     @Override
36     public String toString() {
37         return "module for measuring consumed time";
38     }
39
40     /** 時間計測開始 */
```

```
39     public void start() {
40         startCpuTime    = threadMXBean.
                                getCurrentThreadCpuTime();
41         startUpTime     = runtimeMXBean.getUptime();
42         startRealTime   = System.currentTimeMillis();
43     }
44
45     /** 前回のマーク時点からの経過時間を計算 */
46     public void calculateLastIntervalTime() {
47         long currentCpuTime    =
48             threadMXBean.getCurrentThreadCpuTime();
49         long currentUpTime     =
50             runtimeMXBean.getUptime();
51         long currentRealTime   =
52             System.currentTimeMillis();
53
54         lastIntervalCpuTime    =
55             (currentCpuTime - startCpuTime) * 1e-9;
56         lastIntervalUpTime     =
57             (currentUpTime - startUpTime) * 1e-9;
58         lastIntervalRealTime   =
59             (currentRealTime - startRealTime) * 1e-9;
60     }
61 }
```



```
        (currentUpTime - startUpTime) * 1e-3;
53     lastIntervalRealTime =
        (currentRealTime - startRealTime) * 1e-3;
54
55     startCpuTime = currentCpuTime; //次の区間の
56     startUpTime = currentUpTime; //時間計測
57     startRealTime = currentRealTime; //のため
58 }
59
60 /** 最新の区間のCPU時間を返す */
61 public double getLastIntervalCpuTime() {
62     if (startCpuTime == -1)
63         System.out.println("(Warning) Stopwatch mode");
64     return lastIntervalCpuTime;
65 }
66
67 /** 最新の区間にJava仮想マシンが稼働した時間を返す */
68 public double getLastIntervalUpTime() {
69     if (startUpTime == -1)
```

```
70         System.out.println("(Warning) Stopwatch mode");
71     return lastIntervalUpTime;
72 }
73
74 /** 最新の区間のカレンダー時間を返す */
75 public double getLastIntervalRealTime() {
76     if (startRealTime == -1)
77         System.out.println("(Warning) Stopwatch mode");
78     return lastIntervalRealTime;
79 }
80 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n TimerForSortModuleIntArray.java
 1 import java.util.Scanner;
 2 import java.util.Random;
 3
 4 /**
 5  * SortModuleForIntArray モジュールの提供する
 6  * 「int 配列内の要素を昇順に並べ替える機能」の動作速度
 7  * を計測する機能を備えたモジュールを作り出すためのクラス
 8  */
 9 public class TimerForSortModuleIntArray {
```

例題 22.12 で示した `TesterForSortModuleIntArray.java`,
例題 14.4 で示した `clock-sort-5-10-etc.c`, それから
上で示した「(考え方)」
を参考に自分で考えてみて下さい。(実習レポート課題 8)

```
[motoki@x205a]$ cat -n TimeSortModulesIntArrayMain.java
 1 /**
 2  * int 配列内の要素を昇順に並べ替える機能を備えた
 3                                     整列化モジュールとして
 4  * ・ HeapsortIntArray オブジェクト,
 5  * ・ BubblesortIntArray オブジェクト,
 6  * ・ LListsortIntArray オブジェクト
 7  * の3つを考え、これらの動作速度を
 8  *     整列化モジュールの動作速度を計測する機能を備えた
 9  *     TimerForSortModuleIntArray オブジェクト
10  * を用いて調べるJavaプログラム
11 */
12 public class TimeSortModulesIntArrayMain {
```

例題22.12で示したTestSortModulesIntArrayMain.java
を参考に自分で考えてみて下さい。(実習レポート課題8)

```
[motoki@x205a]$ javac TimeSortModulesIntArrayMain.java
[motoki@x205a]$ java TimeSortModulesIntArrayMain
```

Clocking the average execution time of the module that sorts 5, 10, 25, 50, 100, or 200 elements.

(*** Heapsort module ***)

Input a random seed (0 - 9223372036854775807): [333](#)

size	** time for sort **		**time for initialize**	
	cpu_time (m sec)	real_time (m sec)	cpu_time (m sec)	real_time (m sec)
5	0.00006	0.00005	0.00014	0.00016
10	0.00028	0.00028	0.00025	0.00024
25	0.00100	0.00101	0.00056	0.00058
50	0.00250	0.00243	0.00113	0.00116
100	0.00550	0.00560	0.00250	0.00230
200	0.01250	0.01260	0.00450	0.00475

Clocking the average execution time of the module that sorts 5, 10, 25, 50, 100, or 200 elements.

(*** Bubblesort module ***)

Input a random seed (0 - 9223372036854775807): [333](#)

size	** time for sort **		**time for initialize**	
	cpu_time (m sec)	real_time (m sec)	cpu_time (m sec)	real_time (m sec)
5	0.00006	0.00004	0.00014	0.00015
10	0.00023	0.00024	0.00025	0.00024
25	0.00125	0.00126	0.00056	0.00059
50	0.00400	0.00406	0.00125	0.00118
100	0.01400	0.01390	0.00225	0.00235
200	0.05300	0.05290	0.00450	0.00465

Clocking the average execution time of the module that sorts 5, 10, 25, 50, 100, or 200 elements.

(*** sort module that is based on insertion in a linked list
 Input a random seed (0 - 9223372036854775807): [333](#)

** time for sort ** **time for initialize**

size	cpu_time (m sec)	real_time (m sec)	cpu_time (m sec)	real_time (m sec)
5	0.00011	0.00014	0.00011	0.00011
10	0.00028	0.00027	0.00020	0.00022
25	0.00075	0.00083	0.00056	0.00053
50	0.00225	0.00219	0.00100	0.00106
100	0.00675	0.00658	0.00225	0.00228
200	0.02250	0.02280	0.00450	0.00425

[motoki@x205a]\$

例題22. 16 (インタフェースを用いて整列化モジュールを統合的に扱う)

例題22.7では 共通の 抽象スーパークラス を設定して3つの整列化モジュールのクラス HeapsortIntArray, BubblesortIntArray, LListsortIntArray を定義し、

例題22.12 **修正**では これらを統合的に扱う例題として、この種の整列化モジュールの提供する「int 配列内の要素を昇順に並べ替える機能」が正しく動作するかどうかを

①0~ 999の間のランダムな整数を要素とする

大きさ100の配列を生成し、

②それに対して与えられた整列化モジュールを適用して

並べ替え作業を行い、

③その結果を出力する、

という風にテストする機能を備えたモジュールのクラスを定義した。

ここでは、抽象スーパークラスではなくインタフェースを用いて整列化モジュールを統合的に扱える様にして、これらと同等のことを行え。

(考え方)

例題22.7で考えた抽象スーパークラス `SortModuleForIntArray` はstaticメソッド `getInstance()` と2つの抽象メソッド `toString()`, `sort()` をメンバーにもつ。

整列化モジュールのクラス定義 に関しては、

- この中の2つの抽象メソッド `toString()`, `sort()` を
メンバーにしたインターフェースを定義し、
このインターフェースを**実装**する形で定義

整列化モジュールの動作テストを行うモジュールのクラス定義

- 本質的には例題22.12 **修正**で作成した
`TesterForSortModuleIntArray.java` 中で使われている
抽象スーパークラスの型 を
インターフェースの型 に**変更**するだけ

(プログラミング) ここで関連するクラスとして、

`ISortModuleForIntArray` ... 整列化モジュールを統合的に扱うための修正インタフェース、
`HeapsortIntArray2` ... heapsort モジュールのクラス、
`BubblesortIntArray2` ... bubblesort モジュールのクラス、
`LListsortIntArray2` ... 連結リストへの挿入に基づく整列化モジュールのクラス、
`TesterForSortModuleIntArray2` ... 動作テストモジュールのクラス

そして、

`TestSortModulesIntArrayMain2.java` ... 定義した `HeapsortIntArray2`, `BubblesortIntArray2`, `LListsortIntArray2` から生成される 3つの整列化モジュール について、
`TesterForSortModuleIntArray2` インスタンス
 を用いて動作テストを行う Java プログラム

```
[motoki@x205a]$ cat -n ISortModuleForIntArray.java
```

```
1 /**
2  * int 配列内の要素を昇順に並べ替える機能を備えた
3  * 整列化モジュールの備えるべきインタフェース
4  */
5 public interface ISortModuleForIntArray {
6     /** 整列化モジュールの説明(主に手法)を答える */
7     String toString();
8
9     /** 引数で与えられた配列内の要素を昇順に並べ替える */
10    void sort(int[] a);
11 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n BubblesortIntArray2.java
```

```
1 /**
2  * int 配列内の要素を bubblesort 手法で昇順に並べ替える
3  * 機能を備えた整列化モジュールを作り出すためのクラス
4  */
5 public class BubblesortIntArray2
6     implements ISortModuleForIntArray {
```

```
6 //クラス内部でインスタンスを1個だけ生成
7 // (コンストラクタはprivate宣言してあるので、 )
8 // (生成されるインスタンスはこの1個だけになり、 )
9 // (これが使い回されることになる。 )
10 private static final BubblesortIntArray2 INSTANCE
    = new BubblesortIntArray2();
11
12 //コンストラクタ (外部からインスタンス生成不可)
13 private BubblesortIntArray2() {
14     super();
15 }
16
17 /** コンストラクタの代わりに外部に整列化モジュールを...
18 public static BubblesortIntArray2 getInstance() {
19     return INSTANCE;
20 }
21
22 /** 整列化モジュールの説明 (主に手法) を答える */
23 @Override
```

```
24 public String toString() {
25     return "Bubblesort module";
26 }
27
28 /** 引数で与えられた配列内の要素を bubblesort 手法で...
29 @Override
30 public void sort(int[] a) {
31     for (int i=0; i<a.length-1; ++i) {
32         for (int j=a.length-1; j>i; --j) {
33             if (a[j-1] > a[j]) {
34                 int temp = a[j-1]; //a[j-1] と a[j]
35                 a[j-1] = a[j]; //の大小を調べ...
36                 a[j] = temp; //逆順なら交換
37             }
38         }
39     }
40 }
41
```

```
42 //-----単体での動作テスト用-----
43 public static void main(String[] args) {
44     int[] a = {9, 8, 6, 7, 5, 3, 1, 2, 4, 0};
45     getInstance().sort(a);
46     System.out.println("after sorting (" + getInstance()
47     System.out.print("  a = {");
48     for (int i=0; i<a.length-1; ++i)
49         System.out.print(a[i] + ", ");
50     System.out.println(a[a.length-1] + "}");
51 }
52 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n HeapsortIntArray2.java
```

BubblesortIntArray2.javaの場合と同様に、
HeapsortIntArray.javaを少し手直しするだけ。
("extends" ではなく "implements"。)

```
[motoki@x205a]$ cat -n LListsortIntArray2.java
```

BubblesortIntArray2.javaの場合と同様に、
LListsortIntArray.javaを少し手直しするだけ。
("extends" ではなく "implements".)

```
[motoki@x205a]$ cat -n TesterForSortModuleIntArray2.java
 1 import java.util.Scanner;
 2 import java.util.Random;
 3
 4 /**
 5  * インターフェースISortModuleForIntArrayを実装したモ...
 6  * 「int配列内の要素を昇順に並べ替える機能」が正しく動作...
 7  * をテストする機能を備えたモジュールを作り出すためのクラ...
 8  */
 9 public class TesterForSortModuleIntArray2 {
10     private static final int SIZE =100;
11     private static final int WIDTH = 10;
12
13     private Scanner inputScanner;
14
```

```
15  /** ISortModuleForIntArray モジュールの動作テストを
16      * 行うモジュールを構成する */
17  public TesterForSortModuleIntArray2()
18      this.inputScanner = new Scanner(System.in);
19
20
21  /** 指定された所から得た擬似乱数シードを用いて
22      * ISortModuleForIntArray モジュールの動作テストを
23      * 行うモジュールを構成する */
24  public TesterForSortModuleIntArray2(
25      Scanner inputScanner)
26      this.inputScanner = inputScanner;
27
28  /** オブジェクトの説明を答える */
29  @Override
30  public String toString() {
31      return "Tester for module that is to sort int c
32  }
```


33

```
34  /** SIZE個のランダムなデータから成る配列に対して  
35  * 引数で与えられた整列化モジュールを実行してみる */
```

```
36  public void runOnRandomData(  
37      ISortModuleForIntArray sortModule) {
```

```
38      int[] a = new int[SIZE];
```

38

```
39      //擬似乱数の設定
```

```
40      System.out.print("擬似乱数の初期シード(long値): ");
```

```
41      long seed = inputScanner.nextLong();
```

```
42      Random randomGenerator = new Random(seed);
```

43

```
44      //配列aの各々の要素に0~999の乱数値を設定
```

```
45      for (int i=0; i<a.length; ++i)
```

```
46          a[i] = randomGenerator.nextInt(1000);
```

47

```
48      //整列化前の配列の内容を表示
```

```
49      System.out.printf("%nbefore sorting:%n");
```

```
50      prettyPrint(a);
```

```
51
52     //整列化
53     sortModule.sort(a);
54
55     //整列化後の配列の内容を表示
56     System.out.println("after sorting(" + sortModule
57     prettyPrint(a);
58 }
59
60 /*-----<privateメソッド>-----
61 * 引数で与えられた配列の要素を順に全て出力(1行にWIDTH
62 private void prettyPrint(int[] a) {
63     int NumOfEleInLine=0;
64
65     for (int i=0; i<a.length; ++i) {
66         System.out.printf("%7d", a[i]);
67         ++NumOfEleInLine;
68         if (NumOfEleInLine >= WIDTH) {
69             System.out.println();
```

```
70         NumOfEleInLine = 0;
71     }
72 }
73     if (NumOfEleInLine > 0)
74         System.out.println();
75 }
76 }
```

```
[motoki@x205a]$ cat -n TestSortModulesIntArrayMain2.java
```

```
1 /**
2  * インターフェース ISortModuleForIntArrayを実装し
3  * int配列内の要素を昇順に並べ替える機能を備えた整列化モ...
4  * ・ HeapsortIntArray2オブジェクト,
5  * ・ BubblesortIntArray2オブジェクト,
6  * ・ LListsortIntArray2オブジェクト
7  * の3つを考え、これらが正しく整列化動作をするかどうかを
8  *     整列化モジュールをテストする機能を備えた
9  *     TesterForSortModuleIntArray2オブジェクト
10 * を用いてテストするJavaプログラム
11 */
```


28 }

```
[motoki@x205a]$ javac TestSortModulesIntArrayMain2.java  
[motoki@x205a]$ java TestSortModulesIntArrayMain2
```

実行の様子は省略